

○諸富 孝彦¹, 角館 直樹^{2,3}, 鷺尾 絢子¹, 吉居 慎二¹, 宮下 桂子¹, 藤元 政考¹, 西原 達次^{3,4}, 北村 知昭¹

¹九州歯科大学口腔機能学講座口腔保存治療学分野, ²九州歯科大学健康増進学講座臨床疫学分野, ³九州歯科大学歯科医学教育センター, ⁴九州歯科大学健康増進学講座感染分子制御学分野

A questionnaire survey on the experience-led learning with scenario-based pre-clinical training from 2014 to 2017

○Takahiko MOROTOMI¹, Naoki KAKUDATE^{2,3}, Ayako WASHIO¹, Shinji YOSHII¹, Keiko MIYASHITA¹, Masataka FUJIMOTO¹, Tatsuji NISHIHARA^{3,4}, Chiaki KITAMURA¹

¹Division of Endodontics and Restorative Dentistry, Department of Oral Functions, ²Division of Clinical Epidemiology, Department of Health Promotion, ³Center for Advanced Dental Education, ⁴Division of Infections and Molecular Biology, Department of Health Promotion, Kyusyu Dental University

【目的】

本学では複数の臨床基礎教育実習に、仮想患者を想定したシナリオベース実習を導入している。特に3年次の「歯の治療学」ではテーマ毎に①予習課題の自己学習レポート提出、②シナリオに沿った体験実習、③実習内容に即した講義、④技術習熟を目的とした定着実習の順に学習する体験先導型教育を実施している。今回我々は本教育法で「歯の治療学」を受講した学生を対象としたアンケート調査結果を集計し、シナリオベース実習を組込んだ体験先導型教育法の有効性について検証した。

【対象と方法】

2014～2017年度の4年間で「歯の治療学」に関する講義・実習を受講し、研究の主旨に同意した第3学年の学生計385名を対象に、講義/実習の最終回にアンケート調査を行った。アンケート内容は講義前の実習、シナリオベース実習、本教育法他教科への導入、実習前の予習と自宅学習、使用するノートブック（実習書）についてであった。

【結果】

講義前の体験実習に肯定的な回答は73.0%でシナリオの存在も84.7%が肯定した。同様の教育法他教科への導入には58.4%が肯定的であった。必須の予習については、「予習が苦痛」との設問に「(強く) そう思う」との回答が「(全く) そう思わない」と同等であり(32.2%/29.6%)、「予習ではその日に行う実習内容が理解できない」も同等だった(34.3%/32.2%)。しかし、予習に積極的に取り組めたかという設問では「(強く) そう思う」が多かった(53.8%/12.7%)。一方、「予習課題へのヒントが欲しい」には「(強く) そう思う」が多く(51.4%/24.4%)、2015年度にヒントを追加する以前の水準と同様となった。

【結論】

シナリオベース実習を組込んだ体験先導型教育法が臨床基礎教育において有効であることが示唆された。一方、学生を本教育法に円滑に導入する上で必須のいくつかの課題も示された。